



コミュニティのための レジリエントな都市



講演者：

イリザ・サーアデュディン・ジャマル 氏

バンダ・アチェ市長

インドネシア

構成

- バンダ・アチェ市の概要
- レジリエンス戦略
- 高齢者対策
- 高齢者・災害弱者のためのレジリエンス戦略

バンダ・アチェ市の概要

マラッカ海峡

大アチェ県

大アチェ県

MEURAKSA

KUTARAJA

KUTA ALAM

SYIAH KUALA

ULEE KARENG

BAITURRAHMAN

JAYA BARU

LUENG BATA

BANDA RAYA

- 面積: 61.36平方キロメートル
- 人口: 238,784人
- 9つの区と90の村
- 市民一人あたりのGDP: 3,400米ドル/人
- 標高: 海拔0.80メートル



バンダ・アチェ市のレジリエンス戦略

26日

12月

2004年

地震と津波

数字で見る 損害

- 総面積の2/3が被害に
- 行方不明者・死亡者は61,065人
- 住宅21,751戸が損壊
- 教育施設169カ所が損壊
- 医療施設25カ所が損壊
- 道路302 kmが損壊
- 政府 / 自治体の建物63棟が損壊
- 市場9カ所が損壊
- 公共施設46カ所が損壊

レジリエンス戦略

津波後の再建・復旧活動の中で、防災計画が必要だという意識が高まった。そこで市では、レジリエンス戦略を策定した。

レジリエントな都市

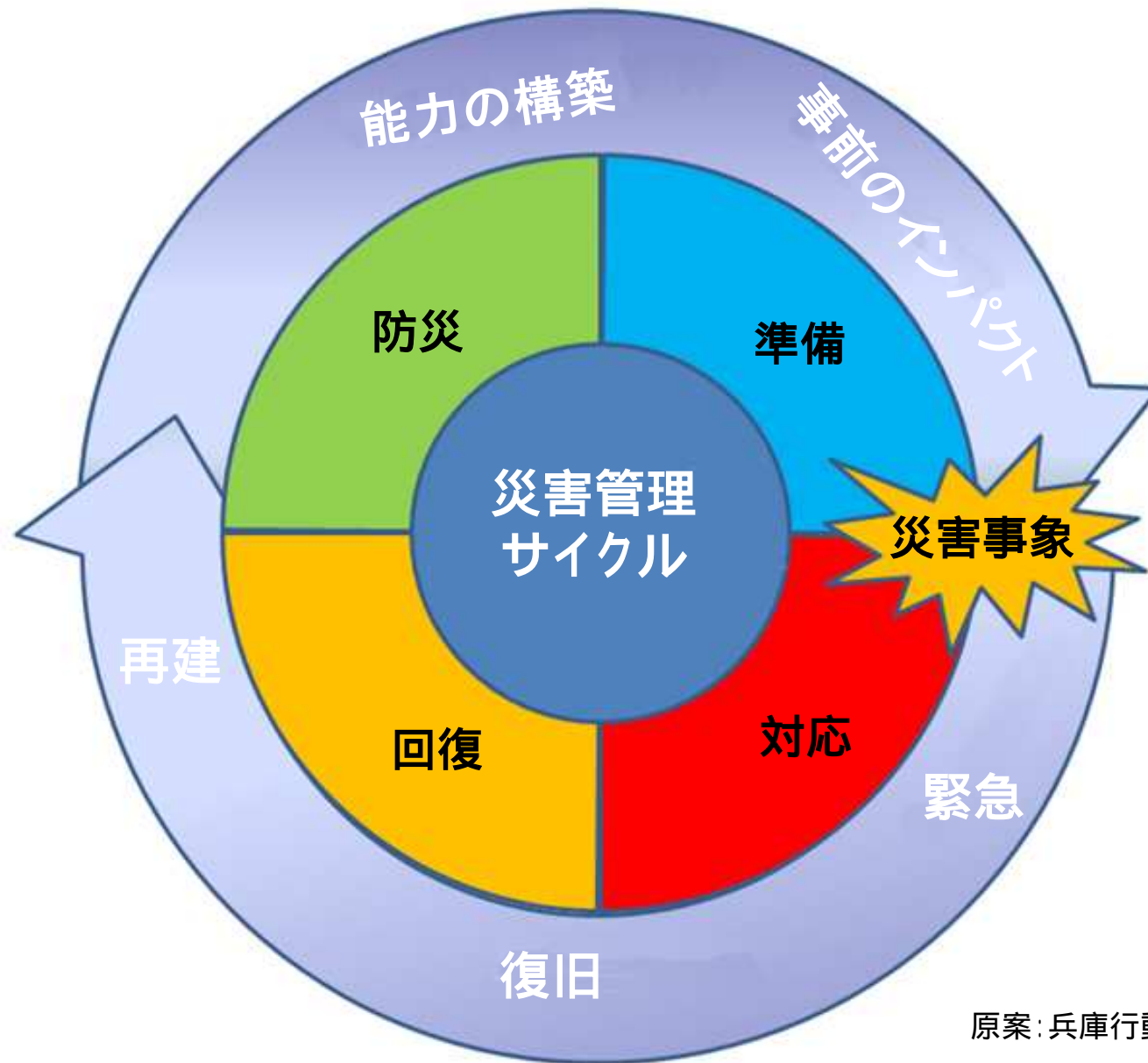
物質面

- 行政マップ
- 防災マップ
- 避難ルート
- インフラ
- 避難道路
- 鉛直避難
- 早期警報システム
- 通信機器
- 危機管理システム (Pusdalop)

物質面以外

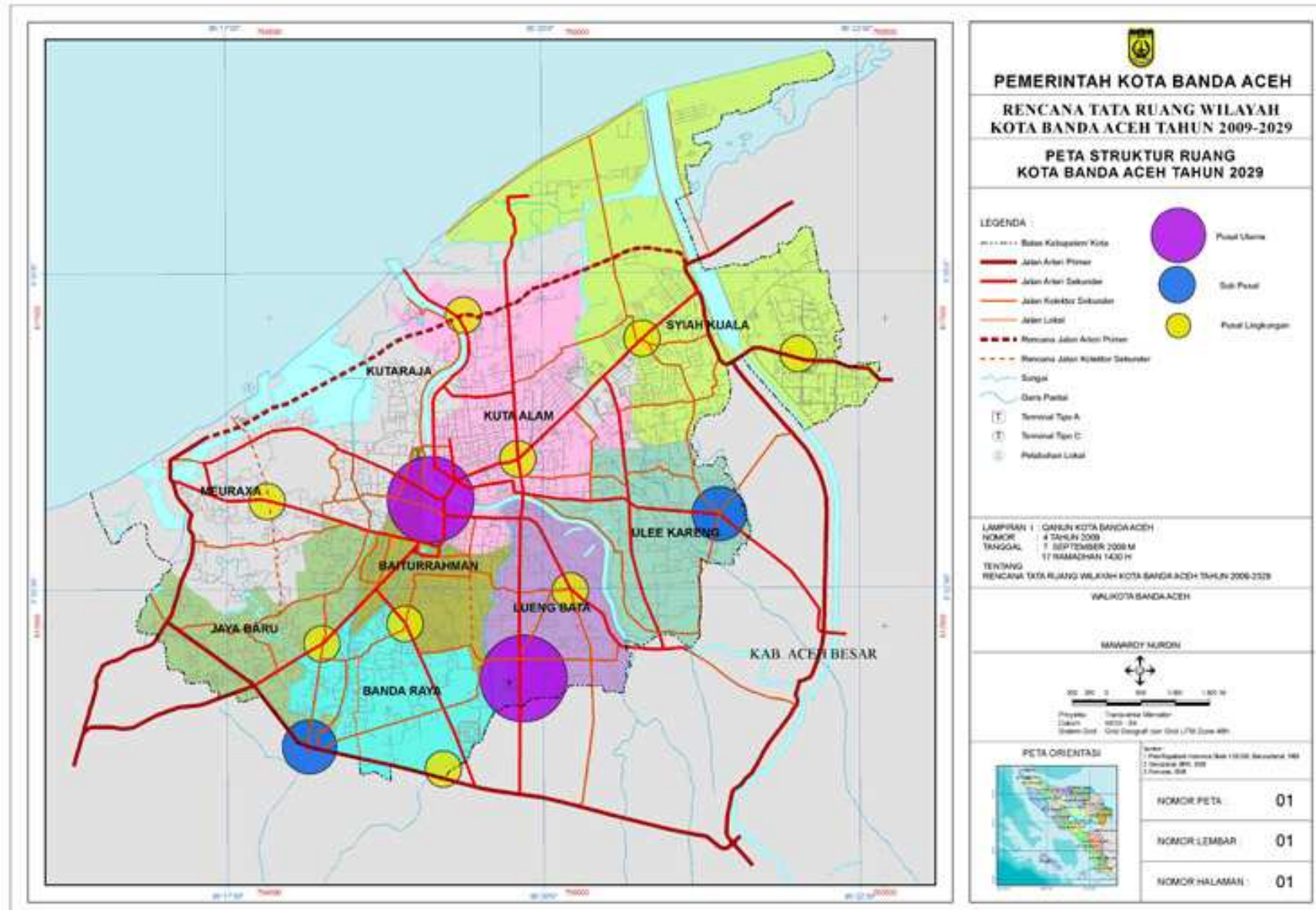
- 地域の知
- 災害発生源
- 過去の災害の歴史
- SOPによる避難 (学校、自治体、コミュニティ)
- トレーニング
- シミュレーション
- レジリエンスレベル
- 災害NGO
- 訓練を受けた集団
- 熱意

レジリエンス戦略



バンダ・アチェ市では、災害管理サイクルの原理を採用している

バンダ・アチェ市の新マスタープラン



バンダ・アチェ市は、防災をベースにしたマスタープランを採用し、沿岸線からより離れた場所での開発に踏み切った。将来のバンダ・アチェは、2つの中心部を擁する市となる。

レジリエンス計画のもたらす付加価値



市内の美化



津波ミュージアム



新たな市中部

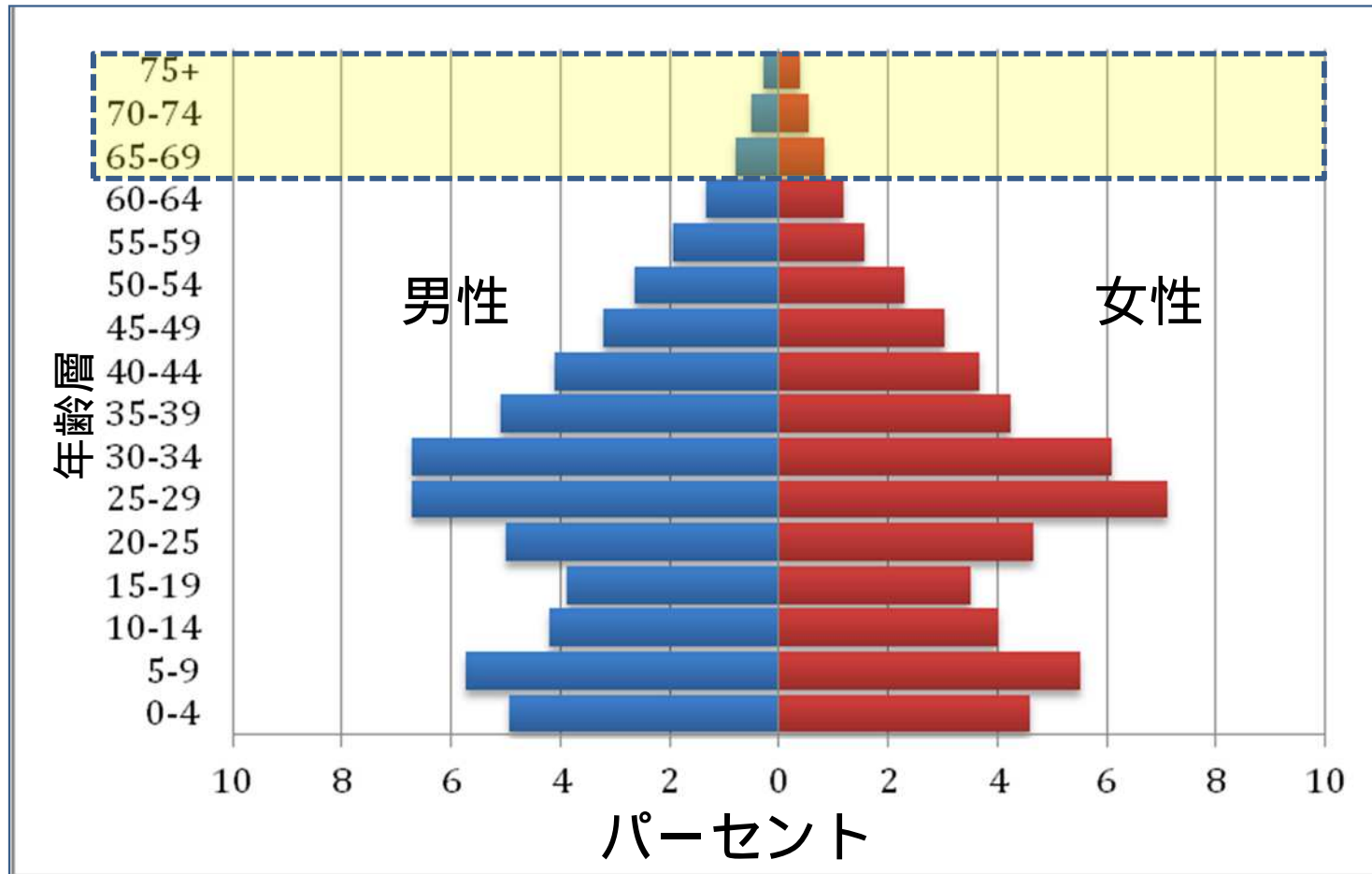


経済発展

年齢構成

高齢による障害や身体障害のある人には、災害サイクルにおける固有のニーズがある。

したがって、ニーズに対応するための違ったアプローチと特別な配慮が必要



バンダ・アチェの高齢者人口は少ない。
市民の多くが若者である。

高齢者対策

- 高齢者や障害者は、自宅で家族と過ごす傾向がある。
- 生活のために仕事を続けている、貧困世帯の高齢者もいる。

社会生活



市中心部の高齢者



街頭で物を売る貧しい高齢者

高齢者対策

- バンダ・アチェ市は、新建築基準法で障害者優先方針を打ち出している。
- 新しく建てられた公共施設では、障害者と高齢者のための設備が設けられている。

旧インフラ



1. 高い歩道
2. 公共交通機関が不便

新インフラ



高齢者・障害者に配慮した設備

高齢者対策

1. 津波後の再建活動の中で、バンダ・アチェ市は、高齢者も対象とした人(ひと)志向の都市計画の策定に取り組み始めた。
2. 市中心部の都市空間は、個人所有の自動車に占領されている。

公共スペース



自動車に占領された市中心部



新たに作られた公共スペース

高齢者・災害弱者のためのレジリエンス戦略

- 高齢者と障害者のための避難時や災害発生時の特別対策。

例：視覚障害者用ランシーバー

- 高齢者と障害者を含めた津波避難訓練

課題：

- 精神障害者のためのSOP避難はどうか？
- 高齢者と障害者の捜索・救助(SAR)のための特別な規定を設けるか？



避難用ビルの傾斜路



高齢者と障害者のための
防災キャンペーン



THANK YOU

ありがとうございます

TERIMA KASIH